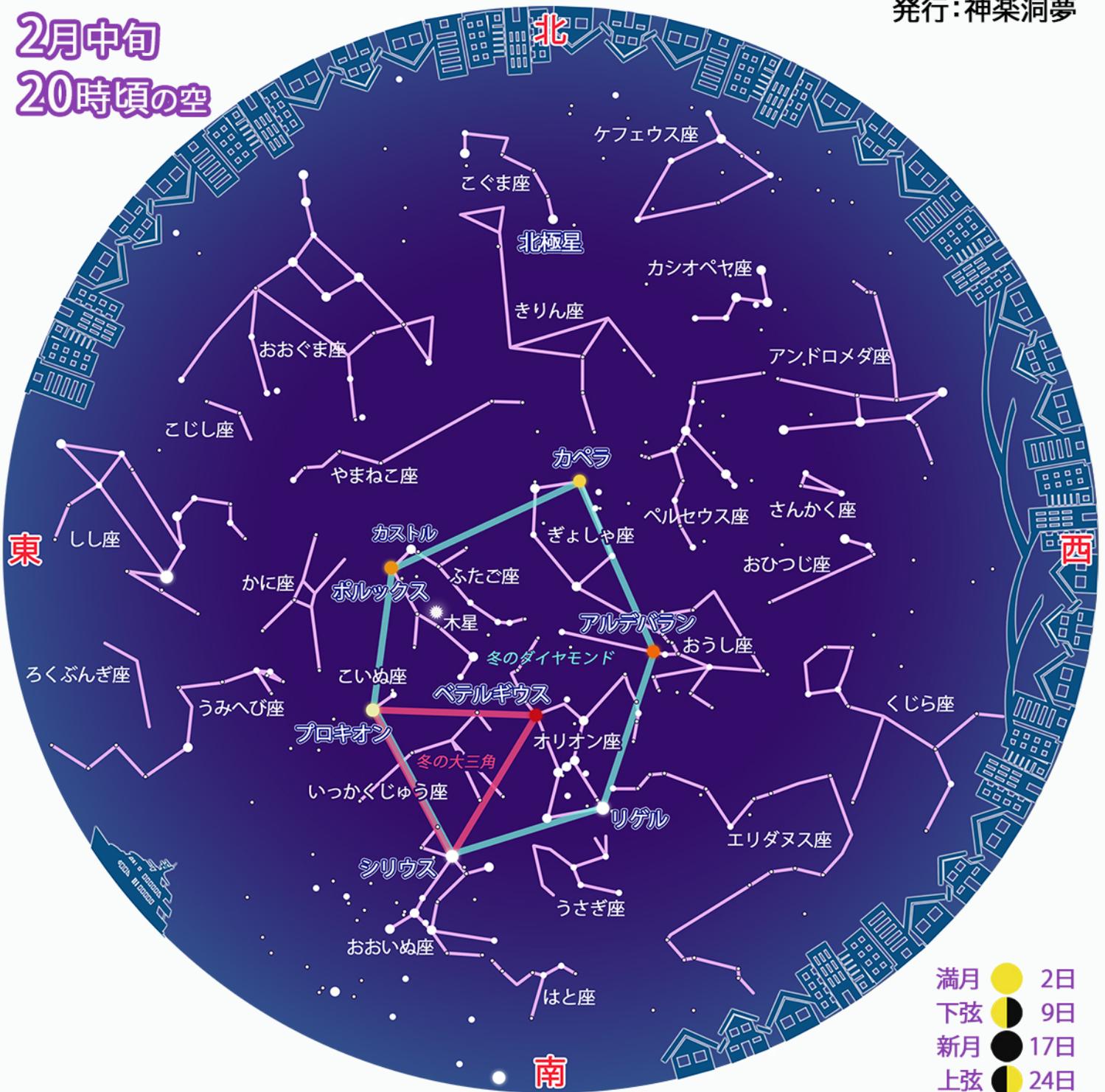


# 神楽通信

2026年  
No.120 2月号

発行:神楽洞夢

2月中旬  
20時頃の空



2月中旬夜8時頃に空を見上げると、やっと冬の王様オリオン座が南中し、「冬の大きな三角」や「冬のダイヤモンド」の形が描きやすくなってきます。ダイヤモンドを作る六角形の中に太陽系の惑星「木星」が一際目立って輝いています。去年に続き、冬の星々と一緒に夜空を彩る木星ですが、次の冬が訪れるころには冬のダイヤモンドからは離れてしまうので、一段とにぎやかな冬の星々を見られるのも、この冬ならではの楽しみかもしれません。

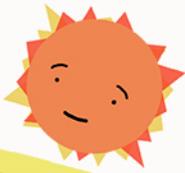
## 星の寿命

夜空に輝く星たちは、永遠に輝き続けるのではなく、私たち人間と同じように終わりがあります。では星の寿命は人間と違ってどのくらいあるのでしょうか？

私たちに一番身近な「太陽」の寿命はおよそ100億年と言われています。星の寿命は星自身の質量で決まるので、生まれたときからいつ終わりが来るのかが分かります。

そのため、「太陽と同じ質量の星」の寿命は太陽と同じ約100億年です。また太陽よりも質量が大きい星は、光り輝くエネルギーを早く使ってしまうため、寿命が短くなります。逆に太陽よりも小さな星は、光り輝くエネルギーをゆっくり使うので寿命が長くなります。

「太陽より質量が小さい星」 < 「太陽と同じ質量の星」 < 「太陽の質量2倍の星」



寿命 約100億年より長い



寿命 約100億年



寿命 約12~25億年

## 星の一生

星の寿命が尽きるまでを、「赤ちゃん星」、「大人の星」、「老いた星」に分けることができます。それを夜空に輝くオリオン座で見てください。まずはオリオン座に二つある1等星のうち、青白く輝く「リゲル」は、星の一生の中でも長い時間をかけて光輝いている「大人の星」です。この時間を過ごした星たちの中には、その後、大きく膨らみ赤く輝く星があり、これを「赤色巨星」といいます。もう一つの1等星「ベテルギウス」は、その赤色巨星にあたる星で、最後を迎える前の「老いた星」です。夜空に輝く赤色やオレンジ色の星々のほとんどが赤色巨星です。では生まれたばかりの赤ちゃん星はどこにあるのでしょうか？

## 赤ちゃん星「トラペジウム」の見つけ方

4等星くらいまで見える暗い場所でオリオン座の三ツ星から下に目を向けると、小三ツ星と呼ばれる星たちのあたりにぼやとした雲のようなものが見つかります。この場所に「オリオン大星雲」と呼ばれる星雲があり、生まれたばかりの星があります。星は星間ガスという空間からガスの固まりが作られ、その雲のようなガスの中から生まれます。オリオン大星雲を望遠鏡で覗くと、「トラペジウム」という生まれたばかりの四つの星を見つけることができます。

冬の王様オリオン座から星の一生を探してみるのも面白いかもしれません。



Okasan Digital Dome Theater  
神楽洞夢  
KAGURA DOME

〒514-0032 三重県津市中央5-20 岡三証券グループ津ビル4階  
http://kagura-dome.jp TEL. 059-221-3121 FAX.059-226-1565